

不安や心配を解消!

## 水に関する Q & A

**Q** お湯を沸かすと、白いものがやかんやポットに付くのは、どうして?

**A** 水の中には、硬度分＝ミネラル（主にカルシウムやマグネシウム）や炭酸ガス（二酸化炭素）などが溶けて含まれていますが、水を沸騰させることで炭酸ガスは溶け切れなくなり、その結果、ミネラルと結びついて、水に溶けにくい物質として出てくるためです。健康に害のあるものではありません。



**Q** 蛇口から水を出すと、たまに真っ白な水が出てくるのは、どうして?

**A** 水道水に溶けこんでいた空気が、水圧や水温の変化により気泡を作り出すためです。白い成分は気泡ですので、水質に問題はありません。透明のコップに白い水を探って2～3分程度置いていたれば、白い気泡が水の表面に集まって消えていくのがわかります。



**Q** 水から薬のような臭いがすることあるのは、どうして?

**A** 薬のような臭いがするのは、水道水に含まれる塩素臭（カルキ臭）によるものです。水道水は、水を作る過程（浄水処理過程）や水を皆さんに送る過程（送配水過程）で殺菌や細菌予防のため塩素消毒をすることが、水道法で義務付けられています。塩素臭のする水道水は、細菌についての心配はなく、安心して飲んでいただけます。



**Q** 朝夕の使い出しの際に茶色い水が出てくるのは、どうして?

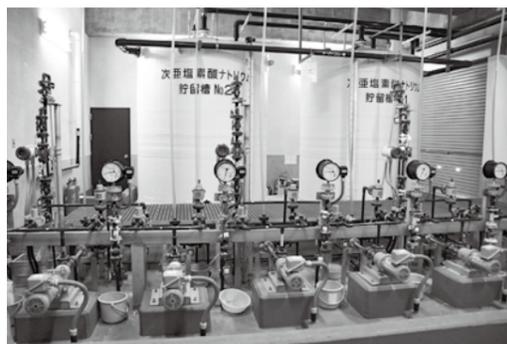
**A** 原因の一つに、家の中の古い配管や給湯器から、水道水を使用しない時間にサビが溶け出すことが考えられます。そのような場合は、しばらく配管内の水を流して、きれいにすることをお勧めします。サビが流れ出て、きれいな水になります。



## 水道水は安全です

大藪浄水場では、塩素（次亜塩素酸ナトリウム）による消毒を適切に行い、安全な水を供給していますので、安心して水道水をご使用ください。

新型コロナウイルス感染症などの感染症予防には、こまめな手洗いが効果的です。安全な水道水で手洗いをしましょう!



▲薬品注入設備

特集

# 安心で安全な水を家庭に届けて60周年

彦根市では、昭和35年に上水道の給水を開始して、今年の11月で60周年を迎えます。今回の特集では、市民の皆さんにお届けする水道水をどのように作っているのかをご紹介します。  
☎ 上下水道総務課 ☎ 22-8477 ☎ FAX 24-4054



## 水道水はどこで作られているか知っていますか?

彦根市では、琵琶湖を水源とした「大藪浄水場」、地下水を水源とした「稻枝水源」と「東沼波水源」で水をきれいにして、市内の各家庭・事業所にお届けしています。



※【水源地とは】地下からくみ上げた水を消毒し、きれいにする施設です。

## 大藪浄水場



### 琵琶湖の水を飲み水へ

浄水場は水道水を作る工場です。大藪浄水場では、琵琶湖から取り込んだ水をきれいにして、安全でおいしく飲むことができる水道水を作っています。

## より安全でよりきれいに

大藪浄水場では、1日3,500万リットルの水を作り、皆さんにお届けするため、24時間体制で、職員一丸となって取り組んでいます。

私たちが使った水は、琵琶湖へ流れ循環されることにより、絶えずきれいな水道水としてお届けできます。皆さんには、自然に配慮した排水など、環境にやさしい生活を続けていただくことを願います。その一つ一つの行動が、より安全な水をお届けすることにつながります。



大藪浄水場長 藤田 幸男